

ZANDEN Model 120 の展開(67) ーベートーヴェンを聴き直す(2)ー

1. 始めに

前報(66)に引き続き、これまで聴いてきたベートーヴェンの盤を聴き直していきます。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベートーヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、直近にベートーヴェン全集からヴァイオリンソナタを聴いたことから、下記を選定しました。

PHILIPS X-8576

ヴァイオリンソナタ第 9 番イ長調作品 47 クロイツェル

ヴァイオリンソナタ第 5 番へ長調作品 14 スプリング

ダヴィッド・オイストラフ (ヴァイオリン)

レフ・オポーリン (ピアノ)

ドイツグラモフォン UCJG-9018

ヴァイオリンソナタ第 9 番イ長調作品 47 クロイツェル

ヴァイオリンソナタ第 5 番へ長調作品 14 スプリング

ユーディ・メニューヒン (ヴァイオリン)

ウイルヘルム・ケンプ (ピアノ)

PHILIPS 27PC-6

ヴァイオリンソナタ第9番イ長調作品47 クロイツェル

ヴァイオリンソナタ第5番ヘ長調作品14 スプリング

ヘンリック・シェリング (ヴァイオリン)

イングリット・ヘブラー (ピアノ)

これらは、下記で報告されています。

[アナログ再構成後の活用\(15\)](#)

[アナログ再構成後の活用\(16\)](#)

[アナログ再構成後の活用\(17\)](#)

3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。PHILIPS レーベルの2枚の盤は、RIAA、正相、第4時定数 High で、ドイツグラモフォン盤は、TELDEC、正相、第4時定数 Mid とします。

上記の盤は3枚ともヴァイオリンソナタ第9番クロイツェルとヴァイオリンソナタ第5番スプリングのカップリングです。

PHILIPS X-8576 のオイストラフとオポーリン盤は、[アナログ再構成後の活用\(15\)](#)での印象では、古い録音で、音質的に少しばかり劣るとしましたが、ZANDEN Model 120 の導入などの効果で、意外にフレッシュな音になっており、言わずと知れた名コンビによる、定番のカップリング盤ということで、オイストラフとオポーリンの息のあった演奏が楽しめます。

ドイツグラモフォン UCJG-9018 のメニューヒンとケンブ盤は、オリジナルマスターテープからカットされた2007年発売の重量盤で、前報(60)と前報(62)で聴いたものと同じマスターのものと思われます。[アナログ再構成後の活用\(16\)](#)では硬質感が感じられたとしましたが、前報(60)と前報(62)で聴いた印象がほぼ再現されました。しかしながら、前報(60)と前報(62)よりすっきりと透明感が向上していますが、前報(60)と前報(62)にあったコクみたいなものは薄れています。

PHILIPS 27PC-6 のシェリングとヘブラー盤は、[アナログ再構成後の活用\(17\)](#)

では、盤質はそれほど良くないものの、シェリングの艶のあるヴァイオリンの音色とヘブラーの豊かな響きのピアノがマッチしているとしましたが、盤質には問題は感じられず、シェリング、ヘブラーともに生き生きとした演奏であることが分りました。

4. まとめ

前回の試聴同様、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の盤の2曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上